

めばえ支援ファイルについて

Mebae Support File

仲 律 子*

Ritsuko NAKA

要 旨

鈴鹿市では、障害のある子どもを持つ保護者が、就園・就学の際に、子どもの状態や特性、有効な支援方法等を引き継ぐための情報をまとめる「めばえ支援ファイル」を作成することとなった。これは連続した発達に連続した支援を行なうことを目的としている。本論分では、「めばえ支援ファイル」を作成する過程とその完成したファイルを紹介したい。

キーワード：めばえ支援ファイル、連続した支援、特別支援教育

1. はじめに

文部科学省では、平成 15 年 3 月の「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」を受け、平成 15 年度及び 16 年度の 2 年間にわたり、「特別支援教育推進体制モデル事業」を 47 都道府県に委嘱して実施し、小・中学校の通常学級に在籍する LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症等の児童生徒を含め、障害¹⁾のある児童生徒への関係機関と連携した総合的な支援体制の整備を図ってきた。

また、平成 17 年 4 月に施行された発達障害者支援法は、発達障害者に対し乳幼児から成人まで、地域における一貫した支援を促進すること、発達支援を担当する部局相互の緊密な連携を確保することを定めている。そして、平成 19 年度から、特別支援教育、つまり「障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導や必要な支援を行なう教育」にシフトしていくことが方向性として決定している。

*本学准教授、教育心理学（Educational Psychology）

これを受けて三重県鈴鹿市では、教育、福祉、医療、就労、地域等の関係機関が連携しながら、子ども、保護者、学校・園を支援するという立場から、平成 17 年度より特別支援教育推進事業の重点地域における巡回相談を開始した。そして、特別支援教育の対象となる発達障害のある児童生徒への支援に取り組み、平成 19 年 3 月に「特別支援教育推進の手引き」を作成した。しかし、これは就学から中学校卒業までの個別の支援計画を引き継ぐためのものであり、出生から就学前までの一貫した支援まではカバーされていないし、これはあくまでも手引きであるため、実用に即していない傾向がある。

一方、発達支援の先進市である湖南省では、平成 14 年より障害のある人への乳幼児から就労期まで、一貫した支援を行なう発達支援システムを立ち上げている。これは、教育、福祉、保健、就労、医療の関係機関の横の連携によるサービスと、個別指導計画・個別移行計画による縦の連携によるサービスを提供するシステムである。また、鳥取市における 5 才児健診は、就学を間近に控えていることを意識した健診であり、就学への移行を円滑に行なうために活用されていると考えられる。

このように各地で様々な試みが始められている中、鈴鹿市では障害のある子を持つ保護者が就園・就学の際に、子どもの状態や特性、有効な支援の方法等をスムーズに引き継ぐための情報をまとめるための「めばえ支援ファイル」を作成することとなった。本論文では、「めばえ支援ファイル」(資料 1) とその作成の過程を報告するものとする。

2. 方法

鈴鹿市教育研究所がめばえネットワーク協議会・支援ファイル作成委員会を立ち上げた。平成 19 年 9 月より第 1 回検討委員会を開始し、翌年 1 月まで計 5 回の話し合いを持った。構成メンバーは、幼稚園代表、保育所長代表、健康づくり課、子育て支援課、教育委員会指導課、牧田小通級指導教室、教育研究所、そして鈴鹿国際大学から 1 名ずつが選出され、合計 8 名であった。

3. 作成過程

(1) 第 1 回検討委員会

まず、「めばえ支援ファイル」(以下、「支援ファイル」と略記)の目的を確認し合う。これは、子どもの連続した発達に対応する連続した支援であり、障害のある子を持つ保護者が就園(就学)の際に、子どもの状態や特性、有効な支援の方法等をスムーズに引き継ぐためのファイルである。また、関係機関を訪れた時に、保護者が子どもの状態について何度も同じ説明をしなくてもすむような工夫も必要である。

その後、取り扱い方法について話し合い、①保護者の了解を得て作成する、②支援ファイルを申し送る際は、保護者が自ら持っていく、③申し送る際は元本を送る、④卒園(終

了後)は保管期間を設けない²⁾などの確認を行なう。

支援ファイルを作成する際に、誰の立場に立って、誰が使いやすいように作成するのが重要なポイントとなるが、あくまでも保護者が望む支援ファイルを作成することを目的とする。そのために、健康づくり課の代表者から、現在の支援の状況の説明をしてもらう。

健康づくり課では、1歳半、3歳児健診で、発達面での遅れやコミュニケーションの遅れが認められた在宅児中心に、集団への適応の様子を見たり、保護者の困り感へのフォローをする親子教室を月1回開いている。この教室は、1歳半～2歳、2歳～3歳、3歳～就園の3段階4教室(2歳～3歳は2教室)があり、誕生日を区切りとして、希望があれば年齢が上の教室に進むことになっている。この活動から、子どもの力が伸びてきて終了することもあれば、障害があるということがわかることもある。

関係機関への引継ぎについては、3歳児健診で心理判定員が発達の遅れている子どもをピックアップし、もし親子教室に来室していた子どもについては、保護者の希望により、保育所(園)・幼稚園に電話で発達の遅れについて伝えることもある。しかし、それを望まない保護者もいれば、「自分で伝えます」と言う保護者も多いという実態の報告があった。

最後に、この支援ファイルを作成したことが有効であったかどうかの検証が必要であること、また、モデルケースについて、支援方法が適切であったかどうかを検証したいなどの意見が出された。

これからの検討委員会の進行については、筆者が会議の検討材料となる支援ファイルの見本を作り、それをもとに内容が適切であるかどうかを検討していく方法をとる。

(2) 第2回検討委員会

保健センターにて親子教室OBの保護者から、支援ファイルを作るにあたっての第1回聴き取り調査を行なった。その報告がなされた。

- ① 身体検査と発達検査の結果などの情報が一箇所に集約されているとわかりやすいので、支援ファイルはあったほうがよい。
- ② 保護者は支援ファイルに記入するが、記入・報告しても支援がなければ意味がないので、どのような支援ができるかを考えてほしい。
- ③ 支援ファイルに記入することで先入観を持たれ、正直に記入したら私立園は入園させてくれないのではないか。
- ④ 保護者が記入する欄だけでなく、専門家も一緒に作成してほしい。
- ⑤ 保育園や幼稚園では、連絡帳に毎日できないことや困ったことを記入されてつらかったため、親の気持ちを酌むためのファイルであってほしい。
- ⑥ 作成すれば終わりではなく、これを元に支援体制を充実してほしい。
- ⑦ 鈴鹿市では、関係機関が連携していても、医療の充実はない。支援ファイルがあれば、主治医は情報提供してくれるのではないかと思う。

- ⑧ すべての保護者が支援に関する情報（支援ファイルがあること、すくすくルームの入級手続き、地域別に保健師がいること、予防接種があること、療育手帳があること、振り分けではない就学相談ができるところなど）を得られるようにしてほしい。
- ⑨ アメリカのように、5歳児健診で、障害のある子どもにどのような才能があるのか見分けるなどの方向性だけでも積極的に示してほしい。
- ⑩ 障害の有無ではなく、子ども一人ひとりの能力や、保護者の困り感に合わせて支援をしてほしい。

以上の保護者の要望を考慮した上で、支援ファイルの作成を行なうことを確認する。それから、支援ファイルのサイズについては、診断書や検査記録などをファイルすることや持ち運びや保管のしやすさのことを考え、A4版で作成することにする。

（3）第3回検討委員会

第1回検討委員会開催の際に、筆者が提出した支援ファイル見本をもとに、親子教室OBの意見交換会を実施した。その報告が行なわれた。

- ① 支援ファイルを作成する目的や使用方法を明確にしてほしい。
- ② 子どもによって疾患や診断名が違うので、詳細な記述ができる欄を作ったらどうか。
- ③ コミュニケーションや人との関わりについて記入する欄があるが、保護者によって捉え方が違うので、どのように記入すればよいかを示してほしい。
- ④ 集団生活に入る前に、何度も同じことを聞かれたりするので、支援ファイルはあるといいと思う。
- ⑤ 母子健康手帳はあくまでも健康な子どもを対象にしたものなので、自分の子どもには合わなかった。支援ファイルなら自分の子どもに合った成長の記録になると思う。
- ⑥ 支援ファイルを作るにあたって、自分たちの意見を取り入れてほしい。直接言える場があるといいと思う。いろいろ聞いていただきたい。
- ⑦ 母だけで、マイサポートノートを作り、子どもにはこのような支援があると絵入りでみんなに理解してもらっている。
- ⑧ すでに医療機関にかかり診断書ももらい、保育所の園の様子も書いてもらい、母の書いた生育歴や本人の苦手なこと・配慮してほしいことなど自閉症協会³⁾の方のすすめもあり、小学校へ持っていった。
- ⑨ 家では母子でスムーズな関係でも、集団（保育所）ではそうではないかもしれない。在宅だと集団生活をイメージできないので、園に要望が言えない。
- ⑩ 学校の就学システムがわからない。すくすくルームの利用はどうしたらいいのか。通級学級にいるこだわりのある子どもの支援はどのようになっているのかわからない。

などの意見が出された。

(4) 第4回検討委員会

筆者が提出する支援ファイル見本と、これまで鈴鹿市教育委員会が作成した個別の教育支援計画（資料2参照）に重複する内容があるため、その関連性と支援ファイルから重複している内容を削除することの確認が行なわれる。

この個別の教育支援計画は、鈴鹿市教育委員会で就学の際に保育所（園）・幼稚園に記入してもらい、小学校に引き継ぐ役割を果たしている。したがって、支援ファイルと個別の教育支援計画をセットにして、就学への引継ぎに活用するものとする。

(5) 第5回検討委員会

最終検討会ということで、保護者、保育士、医療関係者からの聴き取り調査の結果と委員会メンバーの意見を反映させる最終調整をする。以下、主な問題点を挙げる。

- ① 利き手を記入する欄は不要ではないかという意見があった。それは、記入する時点で、まだ利き手が定まっていない場合があるからだ。しかし、利き手が決まることは、脳の発達に重要な影響を及ぼす点を考慮し、そのまま残すことにする。
- ② 母子健康手帳にある出生時の記録を転記する欄を設けていたが、障害のある子を持つ保護者は、原因探しをされていると思い、問題があるのではないかという保護者の意見があり、「妊娠、分娩、出産時に気になったことがあれば書いてください」という自由記述に変更する。
- ③ 1歳から2歳の記録のページの発達のチェックリストは、医師会で発行されているチェックリストを渡せばいいのではないかという医療関係者の意見があった。しかし、障害がある子どもは「いいえ」にチェックされることが多いであろうが、発達のチェックリスト項目をクリアできた月齢・年齢を記入する欄を作ることで、発達の様子が理解できるということで、そのまま残す。
- ④ 医学的、心理学的検査の中に、服用している薬品名を記入する欄を設けていたが、医療関係者から薬品名より効用を書くほうがわかりやすいのではないかという意見があり、変更する。
- ⑤ 保育所（園）・幼稚園での様子のページでは、自由に記述できるように項目を入れていなかったが、1年分の記入する観点のはっきりしないという保育士からの意見があったため「気になる様子」と「支援の内容」について記述する項目を設けた。
- ⑥ 記入例があるほうがわかりやすいという意見があり、記入例を入れた見本を作成する。

4. まとめ

5回の検討委員会を経て、「めばえ支援ファイル」（資料1参照）が完成した。この支援ファイルは、障害のある子の就園・就学に際し、有効な支援の方法等を引き継ぐファイルを作成することによって、連続した発達に連続した支援を行なうことを目的としている。

特別支援教育を必要としている子どもは、一人ひとりのニーズが異なる。保護者の困り感も千差万別であり、子どもや保護者への支援は個別に対応していかなければならない。発達段階によって支援の内容も異なり、連続した発達の過程での連続した支援は、子どもや保護者への途切れない一貫した支援へとつながる。

本委員会でも、できれば湖南省での発達支援システムのように、乳幼児期から就労までの支援を視野に入れて「めばえ支援ファイル」の作成を考えてきたが、すでに就学から中学卒業までの個別の教育支援計画が存在していたため、今回は就学前までの支援ファイルを作成することとなった。

しかし、障害を持つ子どもや保護者は、乳幼児期から就労までの継続した支援を必要としている。例えば、アメリカでは1990年のIDEA（個別障害児教育法）によって、個別移行計画が「一人ひとりの生徒のために計画、検討されたつながりのある活動であり、学校から学校卒業後の活動を促進するプロセスの中で計画されるもの」と定義された。この個別移行計画は、3歳から21歳までの約20年間にわたる障害児に対する個別教育計画の中で、14歳あるいは16歳から将来の職業的自立を図るために計画されるもので、22歳以降は個別就労計画といった職業自立を図るためのカリキュラムが実施される。このような個別移行計画および個別就労計画が鈴鹿市でも実施されることが望まれている。

本ファイルは就学後の個別教育計画につなげるための情報を集約するための役割を果たすこととなると考えられるが、関係機関先で本ファイルを見てもらうことによって、統一した情報を共有できるという利点も併せ持つ。教育、福祉、保健、医療などの機関が同じ情報を共有し、障害のある子どもを支援していくというシステムを作れば、連続した支援を行なうことも可能となる。

現在、鈴鹿市教育研究所では、障害のある子どもを持つ保護者に「めばえ支援ファイル」を利用してもらうことをすすめているが、なかなかその周知は容易ではない。できることなら、鈴鹿市の1歳半健診や3歳児健診の際に、すべての保護者にその存在を知ってもらい、支援に関する情報が手に入りやすい環境を作りたい。子どもに障害があることが判明した時、どこに相談し、どのような支援を受けられるのかがわかっていれば心強い。その上で、教育、福祉、保健、医療などの関係機関と手と手を携えながら、子どもを育てている見通しがつけば、どれだけ保護者は安心するだろうか。

その一つの手立てとして「めばえ支援ファイル」が活用されることを望んでいる。そして、一人でも多くの保護者に利用してもらい、その過程の中で、ファイルの有効性や支援方法の適切さをこれから検証していきたいと考えている。

謝辞

「めばえ支援ファイル」の作成の機会を与えて下さった、故 橋本敏先生に感謝の意を捧げます。

注

- 1) 「障害」を「障がい」と表現するかどうかという点については、三重県では「障がい」という表現を使用しているが、本論文では「障害」と記述することとする。
- 2) 園児の個人情報の記録書類に関しては、卒園後5年間は保管をするという義務があるが、本ファイルに関しては保管期間を設けないこととする。
- 3) 自閉症協会とは、社団法人日本自閉症協会のことである。

参考文献

梅永雄二 『LD・ADHD・アスペルガー症候群の進路とサポート』 明治図書 64-70 (2008)

(資料1)

めぼえ支援ファイル
鈴鹿市

(記入者:保護者)

ふりがな 名前		性別 男 女	生年月日 年 月 日
呼び名		利き手 右 左 定まっていない	
保護者名	続柄()		
現住所	〒 電話		
	〒 電話		
	〒 電話		
家族構成			特記事項
療育センター名 保育所(園)・幼稚園名	①	入所年月日: 年 月 日	
	②	入所年月日: 年 月 日	
	③	入所年月日: 年 月 日	
	④	入所年月日: 年 月 日	
	⑤	入所年月日: 年 月 日	
小学校名	入学年月日: 年 月 日		

出生時と発達の記録

(記入者:保護者)

妊娠、分娩、出産時に気になったことがあれば書いてください。

- 乳児の時はお乳をよく飲みましたか? はい いいえ
- 首がすわりは何ヶ月でしたか? か月
- あやすとよく笑いましたか? はい いいえ
- おすわりをしたのは何ヶ月でしたか? か月
- つかまり立ちができるようになったのは何ヶ月でしたか? ... か月
- 人見知りをしましたか? はい いいえ
- 1才頃おとなの言う簡単な言葉がわかりましたか? はい いいえ
- ひとり歩きができるようになったのは何ヶ月でしたか? か月
- はじめて意味のある言葉(まんま、フーフーなど)を話したのは何ヶ月でしたか?
..... か月
- 生後すぐから1才半までに、育児に困難を感じたことがありましたか?
..... はい いいえ

生後すぐから1才半頃までで、育児に困難を感じたことがあれば、具体的に書いてください。

1歳半～2歳の記録

(記入者:保護者)

- だいぶはやく、ちょこちょこ歩くことができますか？ ……はい(か月) いいえ
- いすの上に立つことができますか？ ……………はい(か月) いいえ
- 積木を積み上げることができますか？ ……………はい(か月) いいえ
- 小さな物をコップ、ビンなどに入れたり出したりして遊びますか？・はい(か月) いいえ
- えんぴつでなぐりがきができますか？ ……………はい(か月) いいえ
- 自分でスプーンをもち、すくって食べることができますか？ ・はい(か月) いいえ
- おしっこをしたあとで教えますか？ ……………はい(か月) いいえ
- 友達とおもちゃを取り合ったりしますか？ ……………はい(か月) いいえ
- パンツやスボンなどを、自分で脱ごうとしますか？ ……はい(か月) いいえ
- 絵本を見て、知っているものの名前を言ったり、指さしをしますか？
……………はい(か月) いいえ
- フラシ、スプーンなどを使っているのを見て真似をして使いますか？
……………はい(か月) いいえ
- 目、耳、口、鼻などをたずねると自分のものをさす事ができますか？
……………はい(か月) いいえ
- 簡単ないつけを理解して、することができますか？(「○○もってきて」など)
……………はい(か月) いいえ
- 何かを見つけたり、感動した時に親に見せたり、知らせますか？
……………はい(か月) いいえ

1歳6か月健診時の記録・アドバイス 受診日: 年 月 日
 体重: Kg 身長: cm カウフ指数: 受診施設:

医師	
保健師	
心理判定員	

1歳半～2歳の様子

3歳児の記録

(記入者:保護者)

<ul style="list-style-type: none"> ● ころばずに走ることができますか? ……はい(か月) いいえ ● 両足をそろえて低いところ(30cm)から飛び降りることができますか? ……………はい(か月) いいえ ● まねて、丸を書くことができますか? ……はい(か月) いいえ ● 積木(約3cm)を5個以上積み上げることができますか? ……はい(か月) いいえ ● くつをはくことができますか? ……はい(か月) いいえ ● 自分の姓名、年齢を言うことができますか? ……はい(か月) いいえ ● 文章になっている話ができますか? ……はい(か月) いいえ ● 「これなーに」などとよく質問しますか? ……はい(か月) いいえ ● 自分のものと他人のものの区別がつかますか? ……はい(か月) いいえ ● 大きさの大小(例えば8cmと5cmの円)の区別がつかますか? ……はい(か月) いいえ ● 屋間おしっこが一人でできますか? ……はい(か月) いいえ ● ほとんどこぼさないで一人で食事ができますか? ……はい(か月) いいえ ● 夜のおむつはいらないですか? ……はい(か月) いいえ ● 大便をまちがいなく教えますか? ……はい(か月) いいえ ● 歯をみがけますか?(不完全でも習慣になっている) ……はい(か月) いいえ ● 欲しいものがあっても言い聞かせれば少しの間はがまんができますか? ……………はい(か月) いいえ ● 何かを見つけたり、感動した時に親に見せたり、知らせますか? ……はい(か月) いいえ ● 友達が自分の使いたい物を使っている時、「かして」といえますか? ……………はい(か月) いいえ 	
<p>3歳児健診時の記録・アドバイス</p> <p>受診日: 年 月 日</p> <p>体重: Kg 身長: cm カウフ指数: 受診施設:</p> <p>アドバイス</p>	
<p>3歳の様子</p>	

5歳児の発達記録(就学時健診時:10月頃)

(記入者:保護者)

- 体重: Kg 身長: cm カウフ指数: かかりつけ医: なし あり
- 片足ケンケンが5回以上できますか? ……はい(か月) いいえ
 - でんぐり返しができますか? …… はい(か月) いいえ
 - フランコを立ったままこくことができますか? ……はい(か月) いいえ
 - 自分でシャツを着たり、パンツをはくことができますか? ……はい(か月) いいえ
 - まねて、三角形を描くことができますか? ……はい(か月) いいえ
 - 「なぜ」「どうして」などとたずねますか? ……はい(か月) いいえ
 - 10までの数を数えることができますか? ……はい(か月) いいえ
 - 鼻をかむことができますか? ……はい(か月) いいえ
 - 自分で大便の始末ができますか? ……はい(か月) いいえ
 - 色々な遊びに興味を示し、それに集中できますか? ……はい(か月) いいえ
 - 簡単な約束やルール、順番を守ることができますか? ……はい(か月) いいえ
 - 三人以上の友達と一緒に仲良く遊ぶことができますか? ……はい(か月) いいえ
 - 何かを見つけたり感動した時に、親に見せたり、知らせますか?はい(か月) いいえ
 - 1日の流れをだいたい理解して毎日を送っていますか? ……はい(か月) いいえ

5歳の様子

医学的、心理学的検査 (記入者:)

検査名	実施時期	機関	結果
	年 月 日 (才 ヶ月時)		
	年 月 日 (才 ヶ月時)		
	年 月 日 (才 ヶ月時)		
	年 月 日 (才 ヶ月時)		
	年 月 日 (才 ヶ月時)		
受診している医療機関、療育機関等			
診断名			
1	年 月 日(才 か月)	診断機関:	
服用している薬		(効用:)
2	年 月 日(才 か月)	診断機関:	
服用している薬		(効用:)
3	年 月 日(才 か月)	診断機関:	
服用している薬		(効用:)
4	年 月 日(才 か月)	診断機関:	
服用している薬		(効用:)
5	年 月 日(才 か月)	診断機関:	
服用している薬		(効用:)
福祉の利用(手帳・ヘルパー等日中活動など)			

医療機関等

(記入者:保護者)

既往症などで気をつけてほしいこと	受診している医療機関
1. (才 か月)	
2. (才 か月)	
3. (才 か月)	
4. (才 か月)	
5. (才 か月)	
6. (才 か月)	
7. (才 か月)	
8. (才 か月)	
9. (才 か月)	
10. (才 か月)	

保育所(園)・幼稚園での様子

(記入者:担任)

気になる様子	支援の内容
0才	
1才	
2才	
3才	
4才	
5才	

(資料2)

個別の教育支援計画

No. 1 <鈴鹿市立

>

ふりがな		性別	生年月日	ふりがな	
名前			年 月 日		
住所	鈴鹿市		電話		
			緊急連絡先		
家族構成					
生育暦	障がい名・病名	(診断機関)			
	障がい者手帳		療育手帳		
	諸検査の結果	検査名 ()		実施日	年 月 日
幼児児童生徒の様子	健康面		生活面		
	学習面		社会性・コミュニケーション		
<生活マップ>					

年 月 日記入 記入者 ()

個別の教育支援計画 No. 2 名前 ()

(本人・保護者) 現在の希望 将来の希望	
----------------------------	--

支援の目標	
-------	--

		名称等	内容
支援の内容	家庭		
	園 学校		
	医療・保健 機関		
	療育・福祉 機関		
	余暇・ 地域		
	労働 機関		
	その他		
支援の 評価			
特記事項			

年 月 日記入 記入者 ()

